

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0373000744
法人名	(有)ヘルパーはうす
事業所名	グループホーム まぶる
所在地	岩手県下閉伊郡山田町大沢2-6-3 (電話) 0193-82-1134

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通り3丁目19-1		
訪問調査日	平成20年10月15日	評価確定日	平成20年11月18日

【情報提供票より】(平成20年 9月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	16年	12月	20日
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人	
職員数	8人	常勤	8人	非常勤 人, 常勤換算 8.3人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2階建ての 1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	15,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300円	昼食	300円
	夕食	300円	おやつ	50円
	または1日当たり	950円		

(4) 利用者の概要(9月20日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	1名	要介護2	3名		
要介護3	2名	要介護4	3名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86.77歳	最低	80歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立山田病院・近藤医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

どこか懐かしい木造の建物の中に、囲炉裏があったり、薪ストーブがあったりとぬくもりを感じる設計となっており、古い民家・洒落た喫茶店をイメージさせる建物である。また、事務室や台所で業務をしながら利用者を見渡せるような構造で、まぶるの理念にあるように「見守る」が随所に表れている。利用者が何事にも望んで参加することを重視しており、利用者が何を求め、何を望んでいるのかを感じとり、「その人らしく生き生きとした生活をする」ように支援されている。「まぶる」は地域の方言で「見守る」「守る」という意味があり、利用者の命、その人らしい生き方そのものを守りたい、押し付けではなく1人1人が本当に望むことをさせたいと熱い想いを語る管理者と職員に守られ、利用者の方々は花を眺めたり、ひなたぼっこをしたり、ゆったりと過ごしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の調査では、外部評価項目3「地域との付き合い」と、11「同業者との交流を通じた向上」の項目の2点を課題とされていたが、この1年間に、県のグループホーム協会に加入し、同じ地域にあるグループホームとの交流も積極的に行われ、職員の育成に効果を上げている他、地域の行事やお座敷広場などにも参加されており、利用者の生き生きとした表情から、更に交流の枠を広げたいという柔軟な考えに変化している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>白紙の状態から全職員で取り組み、1日2時間くらいずつ5日間かけて意見を出し合い、自己評価を行った。職員から様々な意見を聞きとり、管理者がまとめており、職員の気付きや振り返りの参考となっている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では特にテーマを決めず、事業者から入居者の状況やサービス状況、認知症への対応等について報告している。待機者の状況やどんな方が入居に適しているか等情報交換を行い理解を得ている。また、入居者への接し方について家族から意見をいただき、日々の支援に活かしている。運営推進会議のメンバーが少人数であり、話が広がりにくいとの問題点を感じている。今後はグループホームの活動の幅を広げるためにも臨機応変に会議のメンバーを替えるなど、工夫されることを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の負担となるため、家族会は作っていない。運営会議には交替で家族に参加していただき、意見・苦情・要望をだしてもらって意向に沿うように対応している。最低でも月に1回は家族の方が来所され、生活の様子や通院時の報告を受けており、その際に家族の意見を聞き取るように心がけている。また、年に1回、家族アンケートを実施し、意見や要望の把握に努め、日々の活動に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会には加入していないが、町内・系列のホームからイベント等の案内や情報をいただき、利用者の意向に合わせて参加を促している。地域に利用者を出すことで嫌な思いをさせるのではとの気遣いから地域の中に入っていくことに慎重になっていたが、思い切って1人暮らしの方の交流会「お座敷広場」に参加し、良いこともあったと感じている。今後も下見を行い、きちんと準備をしながら慎重に1歩ずつ前にすすんでいきたいとの姿勢を応援したい。地域のお祭りや文化祭等には進んで参加している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時に全職員で作り上げた独自の基本理念で、心理面・身体面・環境等をまとめて作られた理念である。「まぶる」は地域の方言で「見守る」「守る」という意味があり、利用者の命、その人らしい生き方そのものを守るという強い意志が感じられる。5年目を迎えるにあたり、内容を変えずに簡単に表現できないかと考えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念を事務所内数箇所に掲示しており、毎朝申し送り時に職員全員で唱和している。日々の生活においては、何事も押し付けにならないこと、利用者1人1人が本当に望むことをさせたいという意識で職員が関わっている。		利用者も職員も替わってきており、関わり方も日々深まっている。その流れの中で この理念で良いのか立ち止まって再確認してみることも必要のように思われる。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、町内の情報を得て利用者の状況・意向に合わせて地域のイベントに参加している。地域で行われる1人暮らしの方の交流会「お座敷広場」に参加してみたところ、反応がよかった。地域の祭りには見学の席を設けてもらって皆で出かけており、今後は町の文化祭の見学に出かけたり作品の出品を検討中である。	○	地域に利用者を出すことで嫌な思いをさせるのではと職員が慎重になっている面もあった。今回思い切って隣の地区の「お座敷広場」に参加してみたところ反応が良かったため、交流の枠を広げたいという考えに変化している。今後は機会があれば、しっかりと下見をして準備しながら交流を勧めていきたいと考えており、期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	白紙の状態から全職員で1日2時間くらいずつ5日間かけて自己評価を行った。職員からいろいろな意見を聞くことができ、その話し合いを元に管理者がまとめたものである。普段から職員の気づきによりハプラン置き場を洗面所の壁に設置したり、ケアプランを見やすい場所に置いたり改善が行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	テーマを決めず、2ヶ月に1回定期的に会議を開いており、事業所の活動や利用者の状況について報告を行っている。メンバーの変更は無いが、家族に交代で出席してもらうようにしており、同じ地域のグループホームの職員の参加もある。	○	会議場所が狭い関係で運営推進会議のメンバーを5,6名に絞っている。限られたメンバーで今までやってきたが、少人数だと話が広がらないと感じ始めている。今後グループホームとしての活動の幅を広げるためにも、他事業所を参考に状況に応じて協力していただける応援団の方々に参加をお願いしていくことが必要のように思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険情報の提供を受けたり、利用者の情報交換を行っている。また、事故発生時の報告や対処の仕方について相談を受けている他、トラブル発生時の相談等、連携を密にしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	最低でも月に1回は来所するように家族にお願いしている。現在は7名の家族が来所し利用料支払いを行いながら生活の様子や通院時の報告、金銭面の報告を受けており、来所できない家族にはFAXや電話等で連絡を取っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、年度初めに利用者と家族にアンケートを実施し、意見や要望の把握に努めている。行きたいと希望している場所を遠足の目的地にしたり、入浴の同性介助の希望を取り入れたりしている。また運営会議や面会等でも意見の把握に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者がある場合は利用者に支障がないように配慮しており、隣の「ヘルパーはうす」から異動してもらう形をとっている。「ヘルパーはうす」の職員は普段から行き来があるためスムーズに交代が行われている。あいさつ回り等は、職員個々に任せてあるが、利用者への影響もなく上手にしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画に従い、事業所内で研修毎に担当者を決めて実施している。礼節、食中毒、口腔内ケア等のホーム内の研修を行っている。外部の研修へも参加しており、「自分の言葉で話ができる職員育成」を目指して研修しており、出席率が良く、職員を育てることを念頭に効果的な研修を心がけている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部での研修に限界を感じたこともあり、1年前よりグループホーム協会に加入した。運営会議・研修会へ参加することで、交流のみでなく情報を共有し、様々なことを知る機会・再確認の場になっており、仕事にもいい影響を与えている。また同地域のグループホームと利用者の行き来があり、運営会議にお互いの職員が参加し、情報も共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に見学をするように勧めており、段階を踏んで徐々に馴染んでいけるように配慮している。利用者や職員と話して安心したり、準備する物のイメージをつかんでもらっている。利用が決まってから家族の都合により2週間程待ち、納得の上で利用していただいたこともあった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に作業をしながら、「どうやって作るの」と声がけをして利用者の知恵を引き出すように工夫している。時には喧嘩をすることもあるが、きちんとフォローをし、信頼関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時に、家族からの情報や身上書で利用者の生活歴、できることできないこと、趣味、興味のあること等について把握をし、日々の暮らしに役立てている。更に、年度初めのアンケートを参考に利用者の思いや意向を確認している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心に、利用者や家族の希望を入れながら、実施可能、解決可能な介護計画を作っている。その内容を常に意識しながら支援を行うために、職員はケアプランを時折確認してチームで取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	担当の職員が、課題や目標についての利用者の考えを聞き取り、プランの確認、見直しを行っている。これに専門家としてのコメントを入れたモニタリング表を作っており、これを元に介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望はできるだけ叶えてあげたいと考えている。馴染みの寺に祈祷のために出かけたり、頼んだままになっている染物を引き取ろうと近所の染物屋に一緒に出かけたり、希望の寄り道をするなど、柔軟な対応を行って利用者の心の安定を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を重視し町外の受診にも対応しており、全ての利用者がかかりつけ医を受診している。受診には職員が付き添い、精神科受診の場合には町内に精神科が無い場合、家族にも一緒に行ってもらおうとしている。なお、協力病院は緊急時に対応してもらおう形と考えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始前の契約の時点で、家族に対し状態の変化やケアに限度があることを説明し、理解をいただいている。利用者が寝たきりになってもお世話をしていこうと考えているが、褥創が出来たり、シャワー浴も不可能となった時がグループホームでの限界かという思いと、入院するまでまだまだできることがあるはずだという思いの間で日々話し合われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者個々にあった接し方をしていきたいと考えている。方言で話しかけたり、敬語を使ったり色々試みているが反応は様々で、他人行儀で嫌と言われたり、言葉が汚いと言われたり様々な反応が出ており、反省を踏まえて手段を考えている。	○	利用者のことばを真摯に受け止め、生活歴等を把握しつつ、どのような言葉がけが合うのか、敬語・方言の使い分けを常に探し求め、利用者の心に沿った接し方をしたいとの思いから、ことばの大切さを認識した関わり・動きをはじめており、重点項目としている。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度は事業所の流れに合わせているが、特に1日のスケジュールを決めておらず、日向ぼっこをしたり、花を眺めたりするのんびりとした時間を大切にしたいと考えている。起床時には職員が起こすのではなく、自然と利用者同士で声がけしたり、着替えを手伝ったりしながら、上手に支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は何を食べたいかを利用者に聞きながら2、3日分ずつ決めている。毎日の昼食は、その日に食べたいものや冷蔵庫にあるものを見ながら決めており、調理はそれぞれの得意分野を活かしながら一緒に作る姿が見られた。買い物、準備、後片付けまで分担して作業されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝に入浴の希望を聞いているが、いつでも入浴可能となっている。利用者アンケートで同性による介助の希望があったため、希望を尊重するようにしている。本人の身体状況や入浴拒否の状況に合わせて、入浴基準を参考にしながら入浴の可否は管理者が判断している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	過去の経験を活かしたり、無理強いすることなく一人ひとりが、自主的に参加できるような雰囲気づくりと支援を行っている。ひつつみをこねるのが上手な人はそれを手伝ったり、朝早く起きた人は他の利用者に声がけしたり着替えを手伝ったりしながらと、日々の生活の中で互いの役割を自然に果たしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的には敷地内の犬・花を見に行くことが多く、敷地内の稲荷様に参拝したり、隣の畑の花や作物を見に行っている。また、その時の気分によっては花見や紅葉狩りにドライブに出かけたり、外食に出かけたりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけなくても問題になるようなこともなく、逆に職員が気にかけてながら業務・行動している。18時になると殆どの利用者が居室に入ってしまうので、玄関の鍵をかけるようにしている。職員が常に後ろにも目を持ってほしいとの管理者の願いもあり、扉についた風鈴のような小さな音で利用者の出入りを察知できるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	津波、地震、火災を想定した避難訓練を実施している。火災の避難訓練は消防署の指導を受けながら行い、また職員による通報訓練も行っている。隣の社長宅から、通報ボタンで連絡を取ることができる。近くに消防署があることから近隣の方も参加しての訓練は行っていない。	○	災害時に事業所の職員と代表取締役の家族のみで全ての利用者を安全に避難させることに限界を感じているように思われる。今後は地域の方との協力体制を見直し、運営会議等で地域への声がけ、避難場所、避難方法などについて検討していこうと考え始めている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格のある職員が摂取量、栄養バランスを考慮して献立を作っており、利用者の健康状態に応じて食べやすいように調理を行っている。水分量は湯飲みで1回分の量から1日の摂取量を把握するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理、整頓が行き届き、明るく木の香り、温もりが感じられるような空間である。冬になると暖炉で薪を燃やします。利用者がそれぞれお気に入りの場所でゆったりと過ごしており、季節の花や皆で作った暖簾や作品も飾られ、季節感、生活感を感じさせる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用開始時に、利用者の馴染みのものを持ち込むことが出来るように説明をしているが、持込みは少ないように思われる。		